

第287回 日本皮膚科学会岡山地方会

◇専門医後実績 学会認定専門医制度（旧専門医制度）の方
・ 6単位取得できます。

◇専門医後実績 機構認定専門医制度（新専門医制度）の方
（重要）単位付与の受付時間がセッション開始30分前～開始15分後
までとなりました（日本皮膚科学会理事会において決定）。

皮膚科領域講習

- ・ 13：30-14：15の間に受付された方は， 2単位（皮膚科領域講習）
（一般演題1 + 2）取得できます。
- ・ 14：16-16：15の間に受付された方は， 1単位（皮膚科領域講習）
（一般演題2）取得できます。
- ・ それ以降に受付された方は， 単位取得できません。

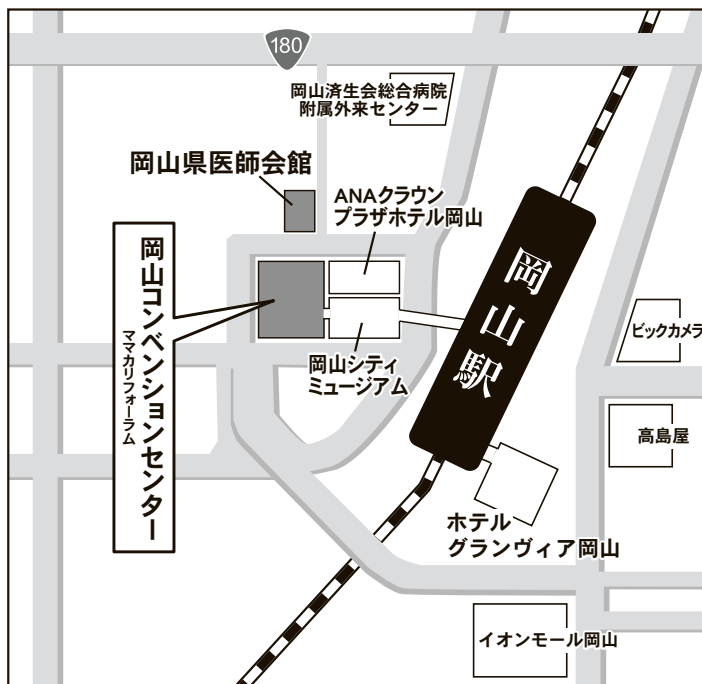
学術業績

- ・ 13：30-16：15の間に受付された方は， 1単位（学術業績）取得
できます。（ただし1年で2単位， 5年で6単位まで）

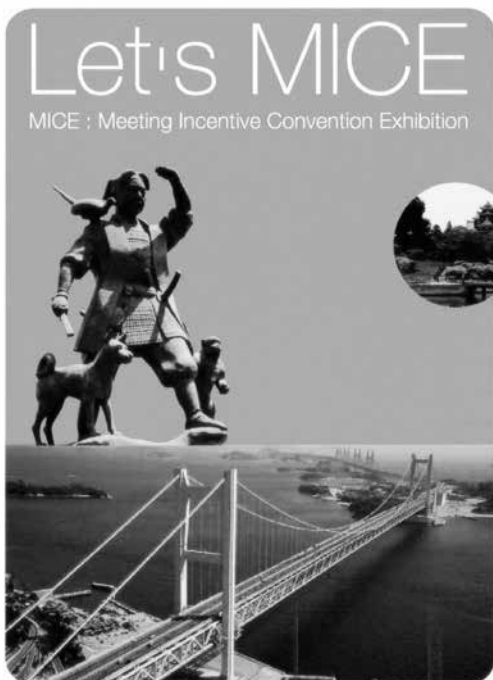
WEB参加の方法と単位認定については，別紙をご参照ください。

日 時 2022年9月4日（日）14時00分
（日本臨床皮膚科医会岡山県支部教育セミナー 13時00分）

場 所 岡山コンベンションセンター
1Fイベントホール
岡山市北区駅元町14-1
TEL.(086)214-1000



地方会会場：岡山コンベンションセンター
 JR岡山駅中央改札口より徒歩3分



岡山コンベンションセンター
 ママカリタワー



〒700 0024
 岡山市北区駅元町14番1号
 TEL. 086-214-1000
 FAX. 086-214-3600
 E-mail: occ-info@mamakari.net

<http://www.mamakari.net>

I 教育セミナー（日本臨床皮膚科医会岡山県支部／大鵬薬品工業株式会社 共催）

13：00～

座長：辻 和英（西川原皮膚科）

「食物アレルギーとアレルギー性蕁麻疹」

猪又直子 先生（昭和大学医学部皮膚科学講座 主任教授）

II 一般演題 1（⊗：スライド供覧…3分，（無印）：一般演題…5分，討論4分）

（時間厳守をお願いします）（所属は抄録提出時のものです）

14：00～

座長：齊藤まり（三豊総合）

1. 倍数希釈法による血清抗体検査で治療開始後の血清RPRが開始前の2倍に上昇した梅毒の1例

○藤井江利子，岡崎布佐子（岡山市民）

26歳，女性。性風俗店勤務。人工妊娠中絶目的に当院産婦人科受診，術前検査にてRPR定性検査陽性，TPHA定性検査陽性であったため，梅毒疑いとして当科紹介。臨床症状はなし。倍数希釈法による治療開始前の血清RPR値は16倍であった。アモキシシリン1500mg/日内服開始するも，開始1ヶ月後の効果判定の際には32倍まで上昇した。倍数希釈法による血清RPR値は $2n=2n-1\sim 2n+1$ 倍を示しているため，見かけ上血清抗体値が上昇したと考えられた。

2. 帯状疱疹に続発した背部癱の1例

○陳 鵬飛，笹岡俊輔（水島中央）

64歳，男性。既往歴に糖尿病，脳梗塞のため左半身片麻痺となり知覚鈍麻であった。20XX年2月末に左胸背部に帯状疱疹を発症し全身には汎発疹も認めていた。バラシクロビル内服で軽快したが，4月初旬に背部帯状疱疹跡に排膿を伴う巨大癱を認めた。抗菌薬の点滴と切開排膿を行い，入院97日目に縫合閉創し退院した。癱の発症に糖尿病，左半身片麻痺，帯状疱疹の関与を考えた。

3. COVID-19 関連色素性痒疹の1例

○中原由紀子，牟禮 海，稲井雅光，青山裕美（川崎医大）

症例24歳，女性。発熱とPCR陽性でCOVID19感染症と診断された。5日目に腕に膨疹と紅斑が出現し体幹に丘疹が拡大した。隔離解除後，近医で色素性痒疹として抗ヒスタミン薬ミノマイシン内服とステロイド外用で軽快しないため紹介受診した。当科初診時，辺縁に丘疹が環状配列し，色素沈着を伴う紅斑が体幹に多発していた。DLST（-），病理組織と経過からCOVID-19関連皮疹と色素性痒疹を考えた。

4. BNT162b2 mRNA COVID-19ワクチン接種後に発症したacute diffuse and total alopecia of the female scalpの1例

○川本雅也，川上佳夫，松田吉弘，平井陽至（岡山大），多田譲治（光生），森実 真（岡山大）

30歳代，女性。BNT162b2 mRNA COVID-19ワクチン1回目を接種してから12日後に微熱，20日後に脱毛斑が出現した。30日後にワクチン2回目を接種した後に脱毛が更に悪化し，当科を紹介・受診した。初診時，頭部全体に汎発性の脱毛斑を認め，ダーモスコープでは感嘆符毛や黒点，皮膚生検では毛包周囲の炎症細胞浸潤と休止期毛の増加を認めた。ステロイド外用のみで様子を見ていたが，初診2か月後から発毛があり，9か月後には90%程度の回復を認めた。

5. 口腔内に多数のびらんを呈した尋常性天疱瘡の2例

○佐藤志帆，山下珠代，斎藤まり（三豊総合），西岡恵美，印藤加奈子（同耳鼻咽喉科），後藤拓朗（同歯科）

症例1：46歳，女性。X年3月中旬より口唇，口腔内が荒れ始め，前医耳鼻科を受診。口唇，口腔粘膜のびらんを認め当院紹介。症例2：73歳，男性。X年4月中旬より口唇の乾燥，口腔内のねばつきを自覚し，前医皮膚科を受診。口唇，口腔粘膜のびらんを認め当院紹介。2症例とも抗デスマグレイン1，3抗体が陽性で，皮膚生検で表皮内水疱を認めた。口腔・咽頭病変は機械的刺激を受けやすく，耳鼻咽喉科，歯科と連携して治療した。

6. 遅発性に水疱形成したペムプロリズマブによる水疱性類天疱瘡

○光井聖子，加藤あずさ，内藤聖子，山口麻里，馬屋原孝恒（岡山赤十字）

73歳，女性。肺癌にてペムプロリズマブを5年間継続投与あり。2年半過ぎ皮疹が出現し，4年経過し全身に紅斑が及んだ。DLSTにて，テプレノン，ロスバスタチン，レボチロキシシンが陽性となった。後者1剤は継続となった。徐々に新たな紅斑に水疱を伴い，蛍光抗体直接法にて陽性所見あり，最終的にペムプロリズマブによる水疱性類天疱瘡と診断した。DLST陽性や皮疹の形態変化および発症機序などにつき考察し報告する。

7. 脱毛から診断に至った高齢期発症の全身性エリテマトーデスの1例

○岡野真理，横山恵美，川上佳夫（岡山大），勝山恵理（同リウマチ膠原病内科），山口春佳（岡山済生会），森実 真（岡山大）

76歳，女性。3か月前から頭頂部に脱毛が生じ，前医でステロイド外用剤で加療されるも無効。血液検査にて抗核抗体640倍と汎血球減少を認め，精査目的に当科紹介受診。頭頂部に8×8cmの不整形脱毛斑がみられ，皮膚生検で毛嚢周囲の線維化，真皮深層から脂肪織にリンパ球の浸潤を認めた。全身性エリテマトーデスと確定診断，プレドニゾロン10mg/日，ヒドロキシクロロキン200mg/日を開始，脱毛は徐々に改善。

8. アトピー性皮膚炎に合併する脱毛症の実態調査

○宮脇秀徳，益子礼人，杉山聖子，青山裕美（川崎医大）

脱毛症には，円形脱毛症（AA），Frontal fibrosing alopecia，男性型脱毛症，瘢痕性脱毛など様々な疾患があり，治療法や予後が異なる。我々は，アトピー性皮膚炎にしばしば脱毛症を合併することに着目し，当科外来症例にてAAと鑑別すべき各種脱毛症の後向き横断的な実態調査を行った。各種脱毛症の臨床的な特徴（肉眼所見，ダーモスコピー所見，病理所見），発生頻度などをまとめて報告する。

Ⅲ 一般演題2（㊗：スライド供覧…3分，（無印）：一般演題…5分，討論4分）

（時間厳守をお願いします）（所属は抄録提出時のものです）

16：00～

座長：服部浩明（岡山市）

9. 間欠的に増悪する痒疹様皮疹から Wells 症候群と診断した 1 例

○浅田志乃舞, 浅越健治 (岡山医療センター), 片山治子 (岡山市)

70代, 男性。30年来の痒疹性皮疹が悪化し3年前に前医受診。生検で特異的所見なく痒疹として加療するも改善に乏しく当科紹介受診。体幹四肢に浮腫性紅斑・痒疹様皮疹を認め, 組織学的に密な好酸球浸潤と flame figure を認めた。末梢血好酸球39%と増加していたが好酸球増多症候群の診断には至らず, Wells 症候群と診断。発作時にはステロイド内服への反応良好だが, 維持治療に抵抗性で間欠的増悪を繰り返す。

10. バリシチニブを中止して確定診断に至った好酸球性胃腸炎の 1 例

○稲井雅光, 杉山聖子, 宮脇秀徳, 中原由紀子, 益子礼人, 松本啓志, 青山裕美 (川崎医大)

23歳, 女性。アトピー性皮膚炎痒疹型にバリシチニブ (JAKi) で加療中。18歳から過敏性腸症候群。小麦食品摂取で消化器症状増悪, 末梢血好酸球増加, 小麦関連抗原抗体陰性であった。JAKi 休業下の小麦負荷試験1h後に腹痛があり, 上下部内視鏡検査で好酸球浸潤 (50個/HPF) を認め好酸球性胃腸炎と確定診断した。JAKi は消化器症状を制御できなかったが, 腸粘膜への好酸球浸潤を抑制していたと考えた。

11. 前頭洞炎により前額部正中に皮膚瘻を形成した 1 例

○山口春佳, 篠倉美理, 吉富恵美, 荒川謙三 (岡山済生会), 平井美紗都 (同耳鼻咽喉科)

66歳, 女性。約8ヶ月前に前額部に腫瘤が生じた。自然経過で排膿・自壊した後, 前額部正中に欠損孔を生じた。欠損孔が塞がらず当科受診。前額部正中に5×3mm大の欠損孔があり排膿がみられた。CTで前額部から前頭洞へ交通する瘻孔と前頭洞主体に副鼻腔に軟部影がみられ, 副鼻腔の骨壁は肥厚していた。耳鼻咽喉科へ紹介し, 前頭洞炎と診断された。副鼻腔炎から皮膚瘻を生じることが稀であり, 報告する。

12. Traumatic neuroma の 2 例

○山本ちひろ, 浦上揚介, 山本剛伸 (川崎医大総合医療センター)

38歳, 男。5年前より右下顎部に5mm大の皮下硬結あり, 一度消退したが徐々に拡大傾向。48歳, 女。5年前に右肩の脂肪腫摘出歴あり, 手術痕外側に1cm大の皮下結節が出現。真皮内に線維性変化と神経線維束の増生があり, traumatic neuroma と診断した。外傷や手術の障害をうけた神経線維の反応性増殖で好発部位は四肢や頭頸部である。四肢切断や胆嚢摘出術後, 植皮部に生じた報告が多いが, 下顎部や脂肪腫術後に生じた症例を経験した。

座長: 立花宏太 (岡山大)

13. 腫瘍細胞周囲に多数の巨細胞浸潤を認めた有棘細胞癌

○奥村健悟, 浦上揚介, 山本剛伸 (川崎医大総合医療センター)

79歳, 女性。2か月前より右頬部にびらんを認めていたが放置。7mm大の浸出液を伴う潰瘍形成を呈したため来院。腫瘍切除施行し有棘細胞癌 (SCC) と診断。組織学的に中分化腫瘍細胞の辺縁にリンパ球, 好中球に混じて多数の巨細胞を認めた。巨細胞 (Osteoclast like Giant cell) の浸潤を認める SCC は, 露出部発症例に多く, 紫外線の関与が指摘されている。所属リンパ節転移をきたしやすい特徴があり, 嚴重な経過フォローが必要である。

14. 粉瘤を発生母地とした臀部有棘細胞癌の1例

○蓮井謙一, 立花宏太 (岡山大), 渡辺敏之 (同形成再建外科), 寺石文則 (同消化管外科), 中井友美 (津山中央), 川上佳夫, 野村隼人, 森実 真 (岡山大)

90歳代, 女性。X-5年より右臀部皮下に腫瘍を自覚していた。X-1年12月頃から同部より出血, 疼痛がありX年2月に当科を紹介受診。右臀部に9×4cm大の一部囊腫様構造を有する皮下腫瘍を認めた。生検にて有棘細胞癌と診断。MRIでは外肛門括約筋に接していた。X年4月に腫瘍切除, 欠損部は薄筋皮弁を用いて再建し, 人工肛門造設術を施行した。病理組織学的に表皮囊腫壁を認め, 粉瘤を発生母地とした有棘細胞癌と考えられた。

15. 左上腕に生じ皮下血腫と鑑別を要した脱分化型脂肪肉腫の1例

○藤本倫代, 芦田日美野, 石井美美, 浅越健治 (岡山医療センター), 横尾 賢 (同整形外科), 神農陽子 (同病理診断科), 福田能丈 (同循環器内科)

80代, 女性。持続性心房細動にてペースメーカー留置後, 大動脈弁・僧帽弁置換後でワーファリン投与中。初診1か月半前に左上腕に皮下腫瘍を自覚し急速に増大。PT-INRは4台と著明に延長。ペースメーカー留置のためMRIは実施できず, 造影CTにて血腫と判断。保存的処置にて経過観察していたが増大傾向。Follow up CT・タリウムシンチにて腫瘍性病変が疑われ, 生検にて脱分化型脂肪肉腫と診断した。

16. レーザー治療後の鼻部褐色斑に対し3度の生検を経て悪性黒色腫と診断した1例

○砂川 滉, 石井美美, 和泉麻衣子, 神野泰輔, 藤本裕子, 池田政身, 眞部恵子 (高松赤十字)

70歳代, 女性。初診20年前から鼻部に淡紅色の扁平隆起性局面あり。近医で13年前から複数回Qスイッチアレキサンドライトレーザーや凍結療法施行。徐々に褐色斑が出現拡大し当科紹介受診。10×13mmの紅斑内に濃淡不整のある5mm大褐色斑あり。生検するも明らかな悪性所見なし。7か月後の再生検では少数の核腫大したメラノサイトを認め, その3か月後再生検し異形メラノサイト増加を認めた。表皮内悪性黒色腫と考え全摘。

IV 日本臨床皮膚科医会岡山県支部総会・岡山県皮膚科医会活動報告

第288回 日本皮膚科学会岡山地方会演題募集

日 時：2023年1月14日（土）14：00より

会 場：岡山コンベンションセンター

演題締切：2022年11月6日（日）必着

出題方法：出来るだけメールにて事務局アドレスまでお申し込みください。

- 件名は「岡山地方会演題申込み」とご記入ください。
- 演題締切日以後、3日を経過しましても受領確認メールが届かない場合は、必ずお問い合わせください。

プログラム用抄録兼日皮会誌用抄録：様式は問いませんが下記要領を厳守の上、Wordにて作成しメールに必ず添付してください。

- 抄録用紙に「スライド供覧」「一般演題」の別を明記。
- 題目：字数制限なし。 ◦ 本文：200文字以内
- 演者名：口演者に○印。姓名の間にスペースを入れない。但し姓または名が一文字の方は○スペース○○，○○スペース○とする。
- 所属：「病院」は省略。（○○）（岡山大）（同内科）（岡山市）等。
- 英字表記：半角で記入。題目、本文中の固有名詞、菌名（必ずイタリック体）以外はすべて文頭でも小文字。
- 数字：算用数字を使用（…の1例。65歳。）

《
見
本
》

一般演題

……………の1例

○岡 一郎，岡山 一，岡山二郎（岡山済生会），岡山花子（同内科）
65歳，男性。……………。

事務局：〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野内

日本皮膚科学会岡山地方会事務局

e-mail：dermantd@okayama-hihuka.jp

FAX：050-3488-8350

【お知らせ】

第289回 日本皮膚科学会岡山地方会

2023年5月20日（土） 14：00（予定）

岡山コンベンションセンター